



Linux システムに **Unified Manager** をインストールします

Active IQ Unified Manager

NetApp
February 03, 2026

目次

Linux システムに Unified Manager をインストールします	1
Active IQ Unified Manager の概要	1
Unified Manager サーバの機能	1
インストール手順の概要	1
Unified Manager をインストールするための要件	2
仮想インフラおよびハードウェアシステムの要件	2
Linux ソフトウェアとインストールの要件	4
サポートされているブラウザ	6
プロトコルとポートの要件	7
ワークシートを完成させる	10
Unified Manager ソフトウェアのインストール、アップグレード、および削除	12
インストールプロセスの概要	12
Unified Managerに必要なソフトウェアをセットアップする	13
SELinux で NFS 共有と CIFS 共有に接続する必要がある	16
Linux システムに Unified Manager をインストールします	19
Red Hat Enterprise Linux 上の Unified Manager のアップグレード	26
Unified Manager のインストール後にサードパーティ製品をアップグレードする	31
統合マネージャを再起動します	32
統合マネージャを削除する	32
カスタム umadmin ユーザーとメンテナンス グループを削除します	33

Linux システムに Unified Manager をインストールします

Active IQ Unified Manager の概要

Active IQ Unified Manager（旧 OnCommand Unified Manager）を使用すると、ONTAP ストレージシステムの健全性とパフォーマンスを 1 つのインターフェイスから監視および管理できます。Unified Manager は、Linux サーバや Windows サーバに導入できるほか、VMware ホストに仮想アプライアンス（vApp）として導入することもできます。

インストールの完了後、管理対象のクラスタを追加すると、Unified Manager のグラフィカルインターフェイスに、監視対象ストレージシステムの容量、可用性、保護、パフォーマンスのステータスが表示されます。

- 関連情報 *

["NetApp Interoperability Matrix Tool で確認できます"](#)

Unified Manager サーバの機能

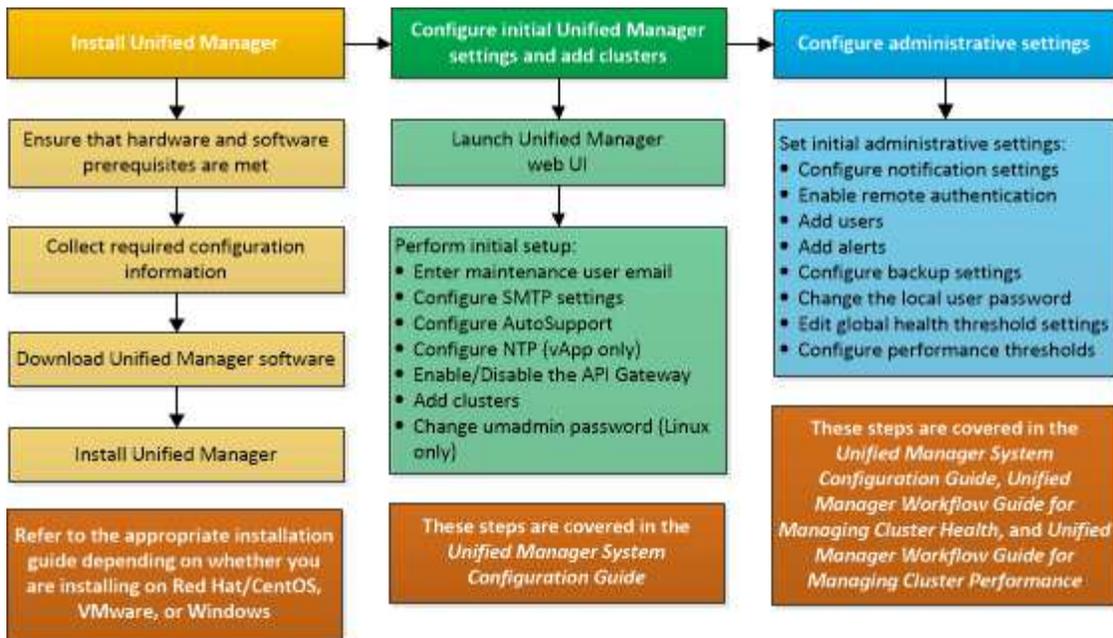
Unified Manager サーバインフラは、データ収集ユニット、データベース、アプリケーションサーバで構成され、検出、監視、ロールベースアクセス制御（RBAC）、監査、ロギングなどのインフラサービスを提供します。

Unified Manager は、クラスタの情報を収集してデータベースにデータを格納し、そのデータを分析してクラスタに問題がないかどうかを確認します。

インストール手順の概要

以下は、Unified Manager を使用する前に必要なインストール作業のワークフローです。

ここでは、次のワークフローに示されている各項目について説明します。



Unified Manager をインストールするための要件

インストールプロセスを開始する前に、Unified Manager をインストールするサーバがソフトウェア、ハードウェア、CPU、およびメモリの所定の要件を満たしていることを確認してください。

ネットアップは、Unified Manager アプリケーションコードの変更をサポートしていません。Unified Manager サーバにセキュリティ対策を適用する必要がある場合は、Unified Manager がインストールされているオペレーティングシステムに変更を加える必要があります。

Unified Manager サーバへのセキュリティ対策の適用の詳細については、ナレッジベースの記事を参照してください。

["Data ONTAP for clustered Active IQ Unified Manager に適用されるセキュリティ対策のサポート性"](#)

- 関連情報 *

["NetApp Interoperability Matrix Tool で確認できます"](#)

仮想インフラおよびハードウェアシステムの要件

仮想インフラまたは物理システムに Unified Manager をインストールする場合、メモリ、CPU、およびディスクスペースの最小要件を満たす必要があります。

次の表に、メモリ、CPU、およびディスクスペースの各リソースについて、推奨される値を示します。これらは、Unified Manager が許容されるパフォーマンスレベルを達成することが確認されている値です。

ハードウェア構成	推奨設定
RAM	12 GB

ハードウェア構成	推奨設定
プロセッサ	CPU × 4
CPU サイクル容量	合計 9572MHz（最小要件は 9572MHz）
空きディスク容量	<p>150GB。割り当ては次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 50GB をルートパーティションに割り当て • /opt/NetApp/data ディレクトリに割り当てられた 100 GB の空きディスク容量。このディレクトリは LVM ドライブまたはターゲットシステムに接続された別のローカルディスクにマウントされません <p> 個別にマウントされたディレクトリ '/opt/var/log' の場合 '/opt/' に 15 GB、'/var/log' に 16 GB の空き領域があることを確認します。「/tmp」ディレクトリには、10 GB 以上の空き領域が必要です。</p>

Unified Manager はメモリの少ないシステムにもインストールできますが、推奨される 12GB の RAM があれば最適なパフォーマンスが保証されるだけでなく、拡張時にクラスタやストレージオブジェクトの追加にも対応できます。Unified Manager を導入する VM にはメモリの上限などを設定しないでください。また、ソフトウェアがシステムで割り当てられているメモリを利用できなくなる機能（バレーニングなど）は有効にしないでください。

さらに、1つのUnified Managerインスタンスで監視できるノードの数には上限があり、この上限を超える場合は2つ目のUnified Managerインスタンスをインストールします。ノード制限、CPU、メモリの推奨事項については、"[Unified Manager ベストプラクティスガイド](#)"。

メモリページのスワッピングは、システムや管理アプリケーションのパフォーマンスに悪影響を及ぼします。CPU リソースがホスト全体で競合して使用できなくなると、パフォーマンスが低下する可能性があります。

専用使用の要件

Unified Manager をインストールする物理システムまたは仮想システムは、他のアプリケーションとは共有せず、Unified Manager 専用にする必要があります。他のアプリケーションにシステムリソースが消費されることで、Unified Manager のパフォーマンスが大幅に低下する可能性があります。

バックアップ用のスペース要件

Unified Manager のバックアップとリストア機能を使用する場合は、「data」ディレクトリまたはディスクに 150GB のスペースがあるように追加の容量を割り当ててください。バックアップはローカルにもリモートにも保存できますが、Unified Manager ホストシステムとは別の、150GB 以上のスペースがあるリモートの場所に保存することを推奨します。

ホスト接続の要件

Unified Manager をインストールする物理システムまたは仮想システムは、ホスト自体からホスト名への ping を実行できるように設定する必要があります。IPv6 構成の場合、Unified Manager を正しくインストールするには、「ping6」によってホスト名に到達することを確認する必要があります。

製品の Web UI には、ホスト名（またはホストの IP アドレス）を使用してアクセスできます。導入時に静的 IP アドレスを使用してネットワークを設定した場合は、指定したネットワークホストの名前を使用します。DHCP を使用してネットワークを設定した場合は、DNS からホスト名を取得します。

完全修飾ドメイン名（FQDN）または IP アドレスの代わりに短縮名を使用した Unified Manager へのアクセスをユーザに許可する場合は、短縮名が有効な FQDN に解決されるようにネットワークを設定する必要があります。

Linux ソフトウェアとインストールの要件

Unified Manager をインストールする Linux システムには、特定のバージョンのオペレーティングシステムとサポートソフトウェアが必要です。

オペレーティングシステムソフトウェア

Linux システムに、次のバージョンのオペレーティングシステムとサポートソフトウェアがインストールされている必要があります。

- x86_64アーキテクチャに基づく Red Hat Enterprise Linuxバージョン8.xおよび9.6。

サポートされている Red Hat Enterprise Linux のバージョンの最新のリストについては、Interoperability Matrix を参照してください。

["mysupport.netapp.com/matrix"](https://mysupport.netapp.com/matrix)

Unified Manager のみを実行する専用のサーバを用意する必要があります。他のアプリケーションをサーバにインストールしないでください。会社の規制により、Qualys のような脆弱性スキャナが Linux システムにインストールされている可能性があります。インストールが失敗しないようにするには、Unified Manager をインストールする前に脆弱性スキャナを無効にする必要があります。



脆弱性スキャナ（Qualys など）を使用すると、内部（Unified Manager と脆弱性スキャナが同じ VM にインストールされている場合）または外部で仮想マシン（VM）をスキャンする際に CPU 使用率が高くなる場合があります。（Unified Manager と脆弱性スキャナが 2 つの異なるサーバにインストールされ、脆弱性スキャナが Unified Manager がインストールされている VM をスキャンします）。この問題を実行すると、VM が応答しなくなり、Unified Manager サービスに影響することがよくあります。そのため、NetApp では、Unified Manager がインストールされている VM で脆弱性スキャナを無効にすることを推奨しています。スキャナを無効にできない場合は、営業時間外に VM をスキャンし、スキャンの完了後にサービスを再起動してください。

サードパーティ製ソフトウェア

Unified Manager は WildFly Web サーバに導入されます。WildFly 26.1.3 は Unified Manager にバンドルされ、設定されています。

次のサードパーティパッケージが必要ですが、Unified Manager には含まれていません。これらのパッケージ

は 'インストール中に 'yum' インストーラによって自動的にインストールされますただし '次のセクションで説明するようにリポジトリを設定している必要があります

- MySQL Community Edition バージョン 8.4.7 (MySQL リポジトリから)
- OpenJDK バージョン 17.0.14+6 (Red Hat Extra Enterprise Linux Server リポジトリから)
- Python 3.13.3 (Red Hat Extra Enterprise Linux Server リポジトリから)
- 7zip バージョン 7z2301-linux-x64。詳細については、"[7zipソフトウェアパッケージを構成する](#)"。



サードパーティ製ソフトウェアをアップグレードする前に、Unified Manager の実行中のインスタンスをシャットダウンする必要があります。サードパーティ製ソフトウェアのインストールが完了したら、Unified Manager を再起動できます。

ユーザ認証の要件

Linux システムへの Unified Manager のインストールは、root ユーザに加え、「sudo」コマンドを使用すれば root 以外のユーザも実行できます。

また、Unified Managerのデフォルトのインストールでは、sudoersファイルと ocie_sudoers /etc/sudoers.d/ ディレクトリにumadminユーザ（デフォルトのメンテナンスユーザ）とjbossユーザが含まれます（ocum_sudoers。セキュリティポリシーまたはセキュリティ監視ツールが原因でこのコンテンツを環境から削除した場合は、再度追加する必要があります。Unified Manager の一部の処理では sudo 権限が必要なため、sudoers の設定を維持する必要があります。

インストールの要件

Red Hat Enterprise Linuxと関連リポジトリをシステムにインストールする際のベストプラクティスを次に示します。別の方法でインストールまたは設定されたシステム、またはオフプレミス（クラウド）に導入されたシステムでは、追加の手順が必要になる場合があります、Unified Managerが適切に実行されない可能性があります。

- Red Hatのベストプラクティスに従ってRed Hat Enterprise Linuxをインストールし、次のデフォルトオプションを選択する必要があります。「GUIを使用するサーバ」ベース環境を選択する必要があります。
- Red Hat Enterprise LinuxへのUnified Managerのインストール中にインストールプログラムが必要なすべてのソフトウェアにアクセスしてインストールできるように、システムには該当するリポジトリへのアクセスが必要です。
- yum` インストーラが Red Hat Enterprise Linux リポジトリで依存するソフトウェアを見つけるためには、Red Hat Enterprise Linux のインストール中またはインストール後に有効な Red Hat サブスクリプションを使用してシステムを登録しておく必要があります。

Red Hat Subscription Manager については、Red Hat のドキュメントを参照してください。

- 必要なサードパーティユーティリティがシステムに正しくインストールされるように、Extra Packages for Enterprise Linux（EPEL）リポジトリを有効にする必要があります。

システムで EPEL リポジトリが設定されていない場合は、リポジトリを手動でダウンロードして設定する必要があります。

を参照してください "[EPEL リポジトリを手動で設定します](#)"。

- 正しいバージョンの MySQL がインストールされていない場合は、システムに MySQL ソフトウェアが正

しくインストールされるように MySQL リポジトリを有効にする必要があります。

システムで MySQL リポジトリが設定されていない場合は、リポジトリを手動でダウンロードして設定する必要があります。

を参照してください "[MySQL リポジトリを手動で設定する](#)"。

- Unified Managerホストにインストールする必要があるJavaのバージョンは1つだけです。インストールしないと、使用するバージョンが特定できない可能性があります。を参照してください "[Active IQ Unified ManagerホストでJavaを更新したあとにサービスが開始されない](#)"

システムがインターネットに接続されておらず、インターネットに接続されたシステムからリポジトリがミラーリングされていない場合は、インストール手順に従って、システムに必要な外部ソフトウェアを確認してください。必要なソフトウェアをダウンロードしたら、インターネットに接続されたシステムにそのソフトウェアをダウンロードし、Unified Managerをインストールするシステムにファイルをコピーし、`.rpm`ます。アーティファクトとパッケージをダウンロードするには、コマンドを使用する必要があります `yum install`。2つのシステムで同じバージョンのオペレーティングシステムを実行していること、および該当するRed Hat Enterprise Linuxのサブスクリプションライセンスがあることを確認する必要があります。



必要なサードパーティ製ソフトウェアは、ここに記載されたリポジトリ以外からはインストールしないでください。Red Hat リポジトリからインストールされるソフトウェアは、Red Hat Enterprise Linux 用に特別に設計されたものであり、Red Hat のベストプラクティス（ディレクトリのレイアウトや権限など）に準拠しています。他の場所から入手したソフトウェアは必ずしもこれらのガイドラインに従っていないため、原因 Unified Manager のインストールに失敗したり、将来のアップグレードで原因の問題が発生したりする可能性があります。

ポート 443 の要件

Red Hat Enterprise Linuxの汎用イメージでは、ポート443への外部アクセスがブロックされることがあります。そのため、Unified Managerのインストール後に管理者Web UIに接続できなくなることがあります。次のコマンドを実行すると、汎用Red Hat Enterprise Linux上のすべての外部ユーザとアプリケーションがポート443にアクセスできるようになります。

```
#firewall-cmd --zone=public--add-port =443/tcp--permanent; firewall-cmd --reload
```

Red Hat Enterprise Linuxは、「GUIを備えたサーバ」ベース環境でインストールする必要があります。Unified Managerのインストール手順で使用されるコマンドを提供します。他のベース環境では、インストールを検証または完了するために追加のコマンドのインストールが必要になる場合があります。システムにがない場合は `firewall-cmd`、次のコマンドを実行してインストールする必要があります。

```
#sudo yum install firewalld`
```

コマンドを実行する前に IT 部門に問い合わせ、セキュリティポリシーで別の手順が必要かどうかを確認してください。



Red Hatシステムでは、THP（Transparent Huge Pages）を無効にする必要があります。有効にすると、特定のプロセスがメモリを大量に消費して終了したときにUnified Managerがシャットダウンすることがあります。

サポートされているブラウザ

Unified Manager Web UI にアクセスするには、サポートされているブラウザを使用しま

す。

サポートされているブラウザとバージョンは Interoperability Matrix で確認できます。

["mysupport.netapp.com/matrix"](https://mysupport.netapp.com/matrix)

すべてのブラウザで、ポップアップブロックを無効にすることでソフトウェアの機能が正しく表示されます。

アイデンティティプロバイダ (IdP) でユーザを認証できるように Unified Manager で SAML 認証を設定する場合は、IdP でサポートされるブラウザのリストも確認してください。

プロトコルとポートの要件

このポートとプロトコルを使用して、Unified Manager サーバは管理対象のストレージシステム、サーバ、その他のコンポーネントと通信します。

Unified Manager サーバへの接続

通常的环境では、Unified Manager Web UI への接続に常にデフォルトのポートが使用されるため、ポート番号を指定する必要はありません。たとえば、Unified Manager は常にデフォルトのポートで実行されるため、「+ <https://<host>:443+>」ではなく「+ <https://<host>+>」と入力できます。

Unified Manager サーバでは、次のインターフェイスにアクセスする際に特定のプロトコルを使用します。

インターフェイス	プロトコル	ポート	説明
Unified Manager Web UI	HTTP	80	Unified Manager Web UI へのアクセスに使用され、自動的にセキュアポート 443 にリダイレクトされます。
Unified Manager Web UI および API を使用するプログラム	HTTPS	443	Unified Manager Web UI へのセキュアなアクセスと API 呼び出しに使用されます。API 呼び出しは HTTPS でしか実行できません。
メンテナンスコンソール	SSH/SFTP	22	メンテナンスコンソールにアクセスしてサポートバンドルを取得する際に使用されます。
Linux コマンドライン	SSH/SFTP	22	Red Hat Enterprise Linux コマンドラインにアクセスしてサポートバンドルを取得するために使用されます。

インターフェイス	プロトコル	ポート	説明
MySQL データベース	MySQL	3306	OnCommand および OnCommand Workflow Automation API サービスから Unified Manager へのアクセスに使用されます。
syslog	UDP	514	ONTAP システムからのサブスクリプションベースの EMS メッセージにアクセスし、メッセージに基づいてイベントを作成する際に使用されます。
REST	HTTPS	ポート 1	認証された ONTAP システムからの REST API ベースのリアルタイムの EMS イベントにアクセスする際に使用されます。
MySQL データベース	MySQL	3306	OnCommand および OnCommand Workflow Automation API サービスから Unified Manager へのアクセスに使用されます。
AMQP QPIDブローカー	TCP/IP	56072	内部メッセージ通信に使用されます。
AMQP QPIDブローカー	TCP経由のWebSocket	56080	ONTAP (クラウドエージェント) から受信したメッセージをこのポートでリッスンするために使用されます。
AMQP QPIDブローカー	TCP経由のWebSocket	56443	ONTAP (クラウドエージェント) から受信したメッセージをこのポートでリッスンするために使用されます。このポートを介した通信は、TLSまたはSSLによる暗号化をサポートします。



MySQLのデフォルトポート3306は、LinuxシステムにUnified Managerをインストールする際にlocalhostにのみ使用できます。これは、前の構成を維持したままのアップグレードシナリオには影響しません。この設定は変更可能で、を使用して他のホストから接続を利用できるようにすることができます Control access to MySQL port 3306 メンテナンスコンソールのオプション。詳細については、を参照してください "[その他のメニューオプション](#)"。HTTP 通信と HTTPS 通信に使用されるポート（ポート 80 と 443）は、Unified Manager メンテナンスコンソールを使用して変更できます。詳細については、を参照してください "[メンテナンスコンソールのメニュー](#)"。

Unified Manager サーバからの接続

ファイアウォールの設定で、Unified Manager サーバと管理対象のストレージシステム、サーバ、その他のコンポーネントの間の通信に使用するポートを開くように設定する必要があります。ポートが開いていない場合、通信は失敗します。

環境に応じて、Unified Manager サーバから特定の接続先への接続に使用するポートとプロトコルを変更することもできます。

Unified Manager サーバは、次のプロトコルとポートを使用して、管理対象のストレージシステム、サーバ、その他のコンポーネントに接続します。

宛先	プロトコル	ポート	説明
ストレージシステム	HTTPS	443 tcp	ストレージシステムの監視と管理に使用されます。
ストレージシステム	NDMP	10000 TCP	特定の Snapshot リストア処理に使用されます。
AutoSupport サーバ	HTTPS	443	AutoSupport 情報の送信に使用されます。この機能を実行するには、インターネットアクセスが必要です。
認証サーバ	LDAP	389	認証要求、およびユーザとグループの検索要求に使用されます。
LDAPS	636	セキュアな LDAP 通信に使用されます。	メールサーバ
SMTP	25	アラート通知 E メール の送信に使用されます。	SNMP トラップの送信元
SNMPv1 または SNMPv3	162 UDP	アラート通知 SNMP トラップの送信に使用されま す	外部データプロバイダのサーバ

宛先	プロトコル	ポート	説明
TCP	2003 年	Graphite などの外部データプロバイダにパフォーマンスデータを送信します。	NTP サーバ
NTP	123 UDP	Unified Manager サーバの時間を外部の NTP タイムサーバと同期するために使用します。（VMware システムのみ）。	syslog

ワークシートを完成させる

Unified Manager をインストールして設定する前に、環境に関する特定の情報を確認しておく必要があります。この情報はワークシートに記録できます。

Unified Manager のインストール情報

Unified Manager をインストールする際に必要な情報を記入します。

ソフトウェアが導入されているシステム	あなたの価値
ホストの完全修飾ドメイン名	
ホストの IP アドレス	
ネットワークマスク	
ゲートウェイの IP アドレス	
プライマリ DNS アドレス	
セカンダリ DNS アドレス	
検索ドメイン	
メンテナンスユーザのユーザ名	
メンテナンスユーザのパスワード	

Unified Manager の設定情報

インストール後に Unified Manager を設定するための情報を記入します。設定によっては省略可能な値もあります。

設定	あなたの価値
メンテナンスユーザの E メールアドレス	
SMTP サーバのホスト名または IP アドレス	
SMTP ユーザ名	
SMTP パスワード	
SMTP ポート	25 (デフォルト値)
アラート通知の送信元 E メールアドレス	
認証サーバのホスト名または IP アドレス	
Active Directory の管理者名または LDAP のバインド識別名	
Active Directory のパスワードまたは LDAP のバインドパスワード	
認証サーバのベース識別名	
アイデンティティプロバイダ (IdP) の URL	
アイデンティティプロバイダ (IdP) のメタデータ	
SNMP トラップの送信先ホストの IP アドレス	
SNMP ポート	

クラスタ情報

Unified Manager を使用して管理するストレージシステムの情報を記入します。

クラスタ 1 / N	あなたの価値
ホスト名またはクラスタ管理 IP アドレス	
ONTAP 管理者のユーザ名	
 管理者には「admin」ロールが割り当てられている必要があります。	

クラスタ 1 / N	あなたの価値
ONTAP 管理者のパスワード	
プロトコル	HTTPS

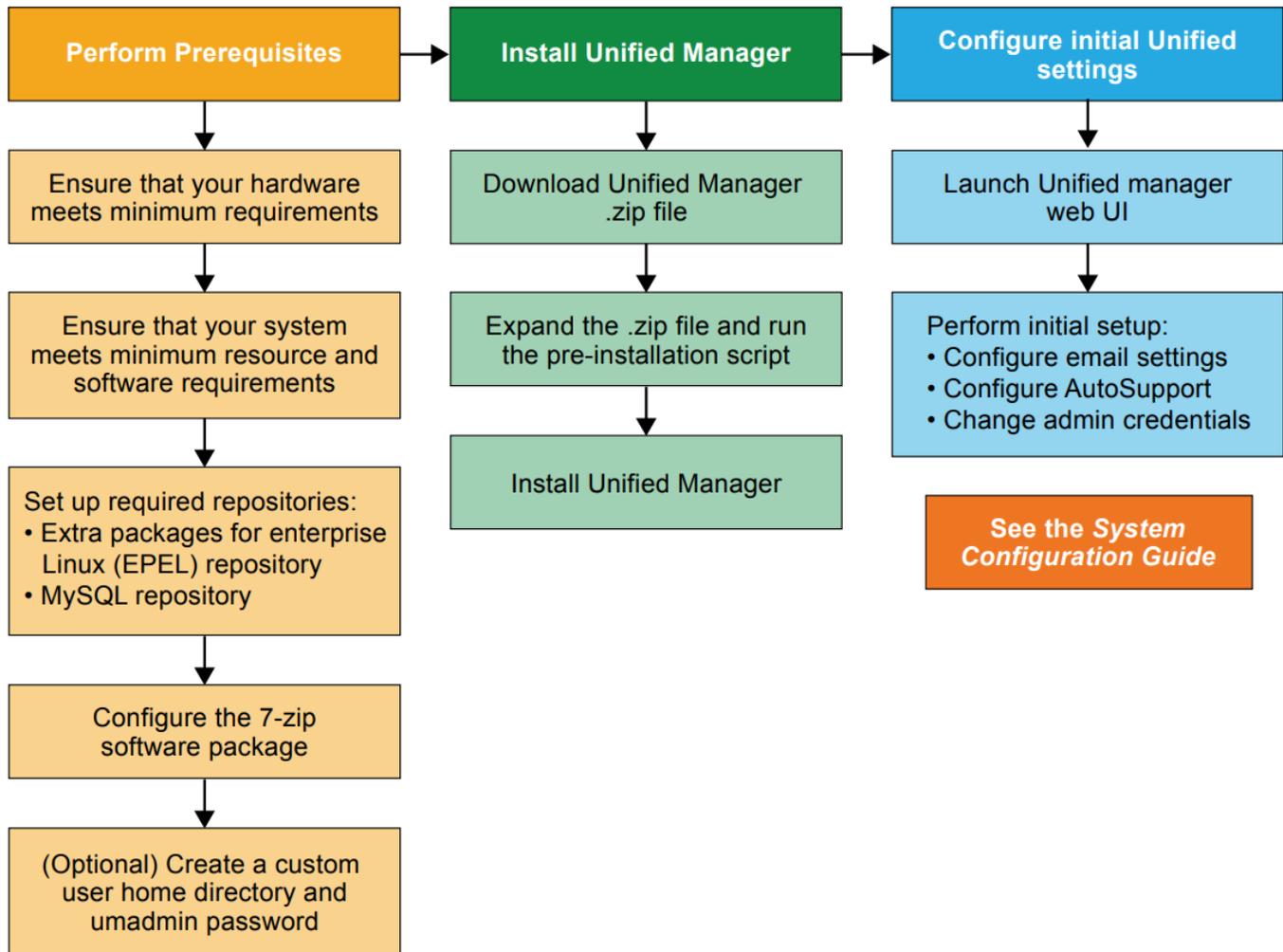
Unified Manager ソフトウェアのインストール、アップグレード、および削除

Linux システムで、Unified Manager ソフトウェアのインストール、新しいバージョンへのアップグレード、または Unified Manager の削除を実行できます。

Unified Manager は Red Hat Enterprise Linux サーバにインストールできます。Unified Manager をインストールする Linux サーバは、物理マシンでも仮想マシンでもかまいません。仮想マシンの場合は、VMware ESXi、Microsoft Hyper-V、または Citrix XenServer で実行されているマシンを使用できます。

インストールプロセスの概要

以下は、Unified Manager を使用する前に必要なインストール作業のワークフローです。



Unified Managerに必要なソフトウェアをセットアップする

インストールプログラムが必要なすべてのソフトウェア依存関係にアクセスしてインストールできるように、システムは特定のリポジトリとパッケージにアクセスする必要があります。

EPELリポジトリを手動で設定する

Unified Manager をインストールするシステムが Extra Packages for Enterprise Linux (EPEL) リポジトリにアクセスできない場合、インストールが成功するためにはリポジトリを手動でダウンロードして設定する必要があります。

EPELリポジトリは、システムにインストールする必要があるサードパーティユーティリティへのアクセスを提供します。EPELリポジトリを使用して、Unified ManagerをRed Hat Enterprise Linuxシステムにインストールします。

手順

1. インストールに対応するEPELリポジトリをダウンロードします。バージョン8の場合は、次のサイトからダウンロードします。

「+ wget」と入力します <https://dl.fedoraproject.org/pub/epel/epel-release-latest-8.noarch.rpm>+

バージョン9の場合は、次のサイトからダウンロードします。

```
wget https://dl.fedoraproject.org/pub/epel/epel-release-latest-9.noarch.rpm
```

2. EPEL リポジトリを設定します。

```
yum`install epel-reley-latest-<version>.noarch.rpm`
```

Red Hat Enterprise Linux 8 システムの場合 'javapackages-filesystem -<version>.mmodule.rpm' などのモジュール型 RPM パッケージを含む内部リポジトリがある場合は、モジュール型パッケージのメタデータも同じリポジトリで使用できることを確認してください

MySQLリポジトリを手動で設定する

Unified Manager をインストールするシステムが MySQL Community Edition リポジトリにアクセスできない場合、インストールが成功するためにはリポジトリを手動でダウンロードして設定する必要があります。

MySQL リポジトリリポジトリリポジトリは、システムにインストールする必要がある MySQL ソフトウェアへのアクセスを提供します。



このタスクは、システムがインターネットに接続されていないと失敗することがあります。Unified Managerをインストールするシステムがインターネットにアクセスできない場合は、MySQLのドキュメントを参照してください。

手順

1. インストールに対応するMySQLリポジトリをダウンロードします。バージョン8の場合は、次のサイトからダウンロードします。

```
wget http://repo.mysql.com/yum/mysql-8.4-community/el/8/x86_64/mysql84-community-release-el8-1.noarch.rpm
```

バージョン9の場合は、次のサイトからダウンロードします。

```
wget http://repo.mysql.com/yum/mysql-8.4-community/el/9/x86_64/mysql84-community-release-el9-1.noarch.rpm
```

2. MySQL リポジトリを設定します。

```
yum install mysql84-community-release-.noarch.rpm
```

Red Hat Enterprise Linux 8 システムの場合、java-17-openjdk、7-zip、および AppStream リポジトリによって提供されるその他のソフトウェア パッケージを含む内部リポジトリがある場合は、AppStream リポジトリを無効にして、MySQL Community Server をインストールする必要があります。次のコマンドを実行します。

```
# sudo yum --disablerepo=rhel-8-for-x86_64-appstream-rpms install mysql-community-server
```

キーまたはキーの不一致が見つからないというエラーが表示され、インストールが失敗した場合は、次の手順を実行してください。

- 接続されているシステムで、次のコマンドを実行して、更新されたMySQLキーをインポートします。

```
rpm --import https://repo.mysql.com/RPM-GPG-KEY-mysql-<xxxx>
```

for example:

```
rpm --import https://repo.mysql.com/RPM-GPG-KEY-mysql-2023
```

- インターネットに接続されていないシステムでは'MySQLリポジトリファイルを更新し'gpgcheck=0とマークしてgpgcheckを無効にします

Unified Manager 用の 7-zip ソフトウェア パッケージを構成する

Red Hat Enterprise Linux システムに Unified Manager を正常にインストールするには、システムが 7-zip ソフトウェア パッケージにアクセスできるようになっている必要があります。ネットワーク アクセスが利用可能で、7-zip URL がファイアウォールによってブロックされていない場合は、インストールまたはアップグレード プロセス中に 7-zip がシステムに自動的にダウンロードされます。NetApp自動ダウンロード方式を推奨しています。

Unified Manager が 7-zip ソフトウェア パッケージを自動的にダウンロードできるように、次の URL がファイアウォールでブロックされていないことを確認してください。 <https://7-zip.org/a/7z2301-linux-x64.tar.xz>

あるいは、7-zip を事前にインストールすることもできます。

7-zipパッケージを事前にインストールする

7-zip を手動でダウンロードするか、バンドルされたスクリプトを使用して事前にインストールできます。次の 2 つの方法のいずれかを選択します。

バンドルされたスクリプトを使用してダウンロードする

ステップ

1. 実行 `install7zip.sh` Unified Manager の zip ファイルに含まれているスクリプト。

手動でダウンロード

7-zip パッケージは必ず公式 Web サイトからのみダウンロードしてください。

手順

1. 公式サイトから 7-zip パッケージ (バージョン 23.01) をダウンロードします。

<https://7-zip.org/a/7z2301-linux-x64.tar.xz>

2. ファイルを RHEL 仮想マシンにコピーします。

```
7z2301-linux-x64.tar.xz
```

3. アーカイブを抽出します:

```
sudo tar -xf 7z2301-linux-x64.tar.xz
```

4. 移動 7zz ファイルに /usr/bin/ ディレクトリ:

```
sudo cp 7zz /usr/bin/
```

5. 実行権限を設定します。

```
sudo chmod 755 /usr/bin/7zz
```

インストールを確認する

7-zip パッケージがシステムに正常にインストールされていることを確認します。

```
7zz -version
```

SELinux で NFS 共有と CIFS 共有に接続する必要がある

SELinux を有効にしている場合 /opt/netapp または /opt/netapp/data を NAS または SAN デバイスにマウントする場合は 'いくつかの考慮事項に注意する必要があります

SELinux を有効にしている環境で、ルートファイルシステム以外の場所から「/opt/netapp」または「/opt/netapp/data」をマウントする場合、マウントされたディレクトリに正しいコンテキストを設定する必要があります。ご使用の環境で該当するシナリオについて、次の手順を実行して正しい SELinux コンテキストを設定および確認してください。

SELinuxコンテキストを設定する場合 `/opt/netapp/data` 搭載されている

システムに「/opt/NetApp/data」をマウントし、SELinux が「forcing」に設定されている場合は、「/opt/NetApp/data」の SELinux コンテキストタイプが「`m ysquid_db_t`」に設定されていることを確認します。これは、データベースファイルの場所に対応するデフォルトのコンテキスト要素です。

1. 次のコマンドを実行してコンテキストを確認します。

```
ls -DZ /opt/NetApp/data
```

出力例を次に示します。

```
drwxr-xr-x. mysql root unconfined_u:object_r:default_t:s0  
/opt/netapp/data
```



この出力では、コンテキストは「default_t」です。このコンテキストを「mysqld_db_t」に変更してください。

2. /opt/NetApp/data のマウント方法に基づいてコンテキストを設定するには、次の手順を実行します。

- a. 次のコマンドを実行してコンテキストをに設定します `mysqld_db_t: semanage fcontext -a -t mysqld_db_t "/opt/netapp/data" `restorecon -R -v /opt/netapp/data`
- b. /etc/fstab に /opt/NetApp/data を設定している場合は 'etc/fstab ファイルを編集する必要があります/opt/NetApp/data/' マウント・オプションの場合は 'MySQL ラベルを次のように追加します

```
context=system_u:object_r:mysqld_db_t:s0
```

- c. コンテキストを有効にするために '/opt/NetApp/data/' をアンマウントして再マウントします
- d. NFS を直接マウントしている場合は、次のコマンドを実行してコンテキストを「mysqld_db_t」に設定します。

```
mount <nfsshare>:/<mountpoint>/opt/NetApp/data-o context=system_u:object_r:mysqld_db_t:s0`
```

3. コンテキストが正しく設定されているかどうかを確認します。

```
ls -DZ /opt/NetApp/data/`
```

出力例を次に示します。

```
drwxr-xr-x. mysql root unconfined_u:object_r:mysqld_db_t:s0  
/opt/netapp/data/`
```

SELinuxコンテキストを設定する場合 `/opt/netapp``搭載されており、 `/opt/netapp/data/``別途マウントされる

このシナリオでは、最初に前のセクションで説明したように、「/opt/NetApp/data/」のコンテキストを設定する必要があります。「/opt/NetApp/data/」のコンテキストを正しく設定したら、親ディレクトリ「/opt/netapp」に SELinux コンテキストが「file-t」に設定されていないことを確認します。

手順

1. 次のコマンドを実行してコンテキストを確認します。

```
ls -DZ /opt/netapp
```

出力例を次に示します。

```
drwxr-xr-x. mysql root unconfined_u:object_r:file_t:s0 /opt/netapp
```

この出力では 'コンテキストは 'file_t' に変更する必要があります次のコマンドは 'コンテキストを 'usr_t' に設定しますセキュリティ要件に基づいて 'file_t' 以外の任意の値にコンテキストを設定できます

2. /opt/netapp のマウント方法に基づいて、コンテキストを設定するには、次の手順を実行します。

a. 次のコマンドを実行してコンテキストを設定します。

```
semanage fcontext -a -t usr_t "/opt/netapp"  
restorecon -v /opt/netapp
```

1. /etc/fstab に /opt/netapp を設定している場合は '/etc/fstab ファイルを編集する必要があります/opt/netapp マウント・オプションの場合は 'mysql ラベルを次のように追加します

```
context=system_u:object_r:usr_t:s0
```

2. コンテキストを有効にするために '/opt/netapp をアンマウントしてから再度マウントします

3. NFS を直接マウントした場合は、次のコマンドを実行してコンテキストを設定します。

```
m ount <nfsshare>:/ <mountpoint>/opt/NetApp-o  
context=system_u:object_r:usr_t:s0
```

a. コンテキストが正しく設定されているかどうかを確認します。

```
ls -DZ /opt/netapp
```

出力例を示します

```
drwxr-xr-x. mysql root unconfined_u:object_r:usr_t:s0 /opt/netapp
```

SELinuxコンテキストを設定する場合 '/opt/netapp`搭載されており、`/opt/netapp/data/' 別途マウントされていない

システムに「/opt/netapp」をマウントして、SELinux が「Enforcing」に設定されている場合は、「/opt/netapp」の SELinux コンテキストタイプが「mysql_db_t」に設定されていることを確認します。これは、データベースファイルの場所に対応するデフォルトのコンテキスト要素です。

手順

1. 次のコマンドを実行してコンテキストを確認します。

```
ls -DZ /opt/netapp
```

出力例を次に示します。

```
drwxr-xr-x. mysql root unconfined_u:object_r:default_t:s0 /opt/netapp
```



この出力では、コンテキストは「default_t」です。このコンテキストを「mysqld_db_t」に変更してください。

2. /opt/netapp のマウント方法に基づいてコンテキストを設定するには、次の手順を実行します。
 - a. 次のコマンドを実行してコンテキストをに設定します `mysqld_db_t: semanage fcontext -a -t mysqld_db_t "/opt/netapp" `restorecon -R -v /opt/netapp`
 - b. /etc/fstab に /opt/netapp を設定している場合は /etc/fstab ファイルを編集します /opt/NetApp/マウント・オプションの場合は 'context=system_u:object_r:mysqld_db_t:s0' として MySQL ラベルを追加します
 - c. コンテキストを有効にするために '/opt/NetApp/' をアンマウントしてから再度マウントします
 - d. NFSを直接マウントしている場合は次のコマンドを実行してコンテキストを `mysqld_db_t: mount <nfsshare>:<mountpoint>/opt/NetApp-o context=system_u:object_r:mysqld_db_t: s0`` に設定します
3. コンテキストが正しく設定されているかどうかを確認します。

```
ls -DZ /opt/NetApp/
```

出力例を次に示します。

```
drwxr-xr-x. mysql root unconfined_u:object_r:mysqld_db_t:s0 /opt/netapp/
```

Linux システムに Unified Manager をインストールします

Unified Manager をダウンロードしてインストールする一連の手順は、インストールシナリオによって異なります。

インストール前にカスタムユーザーホームディレクトリと `umadmin` パスワードを作成します

Unified Manager をインストールする前に、カスタムのホームディレクトリを作成し、`umadmin` ユーザのパスワードを独自に定義できます。このタスクはオプションですが、サイトによっては Unified Manager のデフォルトのインストール設定とは異なる設定が必要になることがあります。

開始する前に

- に記載されたシステム要件を満たしている必要があります "[ハードウェアシステムの要件](#)"。
- Red Hat Enterprise Linux システムに root ユーザとしてログインできる必要があります。

Unified Manager のインストール時、デフォルト設定では次のタスクが実行されます。

- `umadmin` ユーザが作成され、「`/home/umadmin`」がホームディレクトリに設定されます。
- `umadmin` ユーザにデフォルトのパスワード「`admin`」を割り当てます。

一部のインストール環境では '/home へのアクセスが制限されているため' インストールは失敗します。ホームディレクトリは別の場所に作成する必要があります。また、サイトによっては、パスワードの複雑さに関するルールが設定されている場合や、インストールプログラムではなくローカルの管理者が設定したパスワードが必要な場合があります。

インストール環境でデフォルトのインストール設定とは異なる設定が必要な場合は、次の手順に従って、カスタムのホームディレクトリを作成し、umadmin ユーザのパスワードを定義します。

インストール前にこの情報を定義しておけば、インストールスクリプトで設定が検出され、定義した値がデフォルトのインストール設定の代わりに使用されます。

また、Unified Manager のデフォルトのインストールでは、sudoers ファイル（「ocum_sudoers」と「ocie_sudoers」）の「/etc/sudoers.d/」ディレクトリに umadmin ユーザが追加されています。セキュリティポリシーや一部のセキュリティ監視ツールによってこのコンテンツを環境から削除した場合は、再度追加する必要があります。Unified Manager の一部の処理では sudo 権限が必要なため、sudoers の設定を維持する必要があります。

環境内のセキュリティポリシーでは、Unified Manager メンテナンスユーザの sudo 権限を制限しないでください。制限されている権限があると、一部の Unified Manager 処理が失敗することがあります。インストールの完了後に umadmin ユーザとしてログインして、次の sudo コマンドを実行できることを確認します。

```
「sudo systemctl status ocie」
```

エラーが発生せずに ocie サービスの適切なステータスが返されれば問題ありません。

手順

1. サーバに root ユーザとしてログインします。
2. 「メンテナンス」という umadmin グループアカウントを作成します。

```
「groupadd maintenance」
```

3. メンテナンスグループの任意のホームディレクトリにユーザアカウント「umadmin」を作成します。

```
「adduser — home <home_directory>\>-g maintenance umadmin」
```

4. umadmin のパスワードを定義します。

```
「passwd umadmin」をクリックします
```

umadmin ユーザの新しいパスワードの文字列を入力するように求められます。

Unified Manager のインストールが完了したら、umadmin ユーザのログインシェルを指定する必要があります。

Unified Manager をダウンロードします

Unified Manager をインストールするには、Unified Manager の .zip ファイルをネットアップサポートサイトからダウンロードする必要があります。

開始する前に

ネットアップサポートサイトのログインクレデンシャルが必要です。

Red Hat Enterprise Linuxシステム用のUnified Managerインストールパッケージをダウンロードします。

手順

1. ネットアップサポートサイトにログインし、 Unified Manager のダウンロードページに移動します。

"[ネットアップサポートサイト](#)"

2. 必要なバージョンの Unified Manager を選択し、エンドユーザライセンス契約（EULA）に同意します。
3. Linux 用の Unified Manager インストーラファイルをダウンロードし、.zip ファイルをターゲットシステムのディレクトリに保存します。



- お使いのRed Hat Enterprise Linuxシステムに対応した正しいバージョンのインストーラファイルをダウンロードしてください。インストールされているRed Hat Enterprise Linux 8または9に基づいて、適切なバージョンのUnified Managerファイルをダウンロードして`.zip`ください。
- コード署名証明書をダウンロードすることを推奨します (.pem) およびデジタル署名 (.sig) をと共に使用します .zip ファイル。

4. ダウンロードしたソフトウェアのチェックサムの整合性を確認します。
5. コード署名証明書とデジタル署名をダウンロードした場合は、インストーラファイルの整合性を確認できます。インストーラファイルの整合性を確認するには、次のコマンドを使用します。
 - このコマンドは、コード署名証明書から公開鍵を使用してファイルを作成します。

```
openssl x509 -pubkey -noout -in AIQUM-RHEL-CLIENT-INTER-ROOT.pem >  
<public_key_file_name>
```

- ここで、*AIQUM-RHEL-client-inter-root.pem*は、コード署名証明書を含むファイルです。

- このコマンドは、インストーラファイルの署名を検証します。

```
openssl dgst -sha256 -verify <public_key_file_name> -signature  
<signature_file_name> ActiveIQUnifiedManager-<version>.zip
```

のようなメッセージが表示されます Verified Ok インストーラファイルが安全に使用できることを確認します。

Unified Manager をインストールします

Unified Managerは、Red Hat Enterprise Linuxの物理プラットフォームまたは仮想プラットフォームにインストールできます。

開始する前に

- Unified Manager をインストールするシステムがシステムおよびソフトウェアの要件を満たしている必要があります。

を参照してください "[ハードウェアシステムの要件](#)".

を参照して "[Linux ソフトウェアとインストールの要件](#)"

- Unified Manager の .zip ファイルをネットアップサポートサイトからターゲットシステムにダウンロードしておく必要があります。
- ダウンロードしたの整合性を確認しておく必要があります .zip ファイル。
- サポートされている Web ブラウザが必要です。
- ターミナルエミュレーションソフトウェアでスクロールバックが有効になっている必要があります。

Red Hat Enterprise Linuxシステムには、必要なサポートソフトウェア（Java、MySQL、その他のユーティリティ）の必要なバージョンがすべてインストールされているか、一部の必要なソフトウェアのみがインストールされているか、または必要なソフトウェアがまったくインストールされていない新規にインストールされたシステムかもしれません。

手順

1. Unified Manager をインストールするサーバにログインします。
2. 該当するコマンドを入力し、インストールをサポートするためにターゲットシステムでインストールまたはアップグレードが必要なソフトウェアを特定します。

必要なソフトウェアと最小バージョン	ソフトウェアとバージョンを確認するコマンド
OpenJDK バージョン 17.0.14+6	「 java -version 」 のように指定します
MySQL 8.4.7 Community Edition	「 rpm -qa grep -i mysql 」 と入力します
	7-ジップ

3. MySQL 8.4.7 Community Editionより前のMySQLバージョンがインストールされている場合、次のコマンドを入力してアンインストールします。

```
rpm -e <mysql_package_name>
```

依存関係エラーが発生した場合は '--nodeps' オプションを追加してコンポーネントをアンインストールする必要があります

4. インストール用の 「 .zip 」 ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動し、 Unified Manager のバンドルを展開します。

```
'ActiveIQUnifiedManager--<version>.zip' を解凍します
```

Unified Manager に必要な 「 .rpm 」 モジュールがターゲットディレクトリに解凍されます。

5. ディレクトリに次のモジュールがあることを確認します。

```
ls *.rpm`
```

```
「 netapp - um <version>.x86_64.rpm 」
```

6. インストール前スクリプトを実行して、Unified Manager のインストールと競合するシステム設定やインストール済みソフトウェアがないことを確認します。

```
'UDO./PRE_INSTALL_check.sh'
```

インストール前スクリプトは、システムに有効なRed Hat Enterprise Linuxサブスクリプションがあるかどうか、およびシステムが必要なソフトウェアリポジトリにアクセスできるかどうかを確認します。問題が検出された場合は、Unified Manager をインストールする前に修正する必要があります。

Red Hat Enterprise Linux 8 システムの場合、JDK 17 - OpenJDK、7-zip、および AppStream リポジトリによって提供されるその他のソフトウェア パッケージを含む内部リポジトリがある場合は、AppStream リポジトリを無効にして、MySQL Community Server をインストールする必要があります。次のコマンドを実行します。

```
# sudo yum --disablerepo=rhel-8-for-x86_64-appstream-rpms install  
mysql-community-server
```

7. * オプション： * システムがインターネットに接続されておらず、インストールに必要なパッケージを手動でダウンロードする必要がある場合にのみ、手順 7 を実行する必要があります。インターネットにアクセスできるシステムで、必要なすべてのパッケージがある場合は、ステップ8に進みます。システムがインターネットに接続されていない場合やRed Hat Enterprise Linuxのリポジトリを使用していない場合は、次の手順に従って、必要なパッケージが揃っているかどうかを確認し、足りないパッケージをダウンロードします。

- a. Unified Managerをインストールするシステムで、使用可能なパッケージと使用できないパッケージのリストを表示します。`+ yum install netapp-um<version>.x86_64.rpm --assumeno`

"Installing : " セクションの項目は現在のディレクトリにあるパッケージで、 "Installing for dependencies : " セクションの項目はシステムにないパッケージです。

- b. インターネットにアクセスできるシステムで、不足しているパッケージをダウンロードします。

```
yum`install <package_name> --DownloadOnly --downloadaddir=.`
```



yum-plugin-downloadonly プラグインは、Red Hat Enterprise Linux システムで常に有効になっているとは限りません。インストールを実行せずにパッケージをダウンロードするために、「yum install yum-plugin-downloadonly」という機能を有効にする必要がある場合があります

- a. インターネットに接続されたシステムから不足しているパッケージをインストールシステムにコピーします。
8. root ユーザとして、または「sudo」を使用して、次のコマンドを実行してソフトウェアをインストールします。

```
yum`install NetApp-um <version>.x86_64.rpm
```

このコマンドを実行すると、.rpm パッケージ、必要な他のすべてのサポートソフトウェア、および Unified Manager ソフトウェアがインストールされます。

インストールがGPG NOKEYエラーで失敗した場合は、を使用します rpm --import URLからキーをインポートするには、次の手順に従います。

rpm --import <https://repo.mysql.com/RPM-GPG-KEY-mysql-2023>



他のコマンド（など）を使用してインストールを実行しないでください rpm -ivh
。 Unified ManagerをRed Hat Enterprise Linuxシステムに正しくインストールするには、Unified Managerのすべてのファイルと関連ファイルを特定の順序で特定のディレクトリ構造にインストールする必要があります、そのためにはコマンドを使用する必要があります。 yum install netapp-um<version>.x86_64.rpm

9. インストールメッセージの直後に表示される E メール通知は無視してください。

この E メールは最初の cron ジョブの失敗を root ユーザに通知するもので、インストールには影響しません。

10. インストールメッセージが最後まで表示されたら、メッセージを上スクロールして、Unified Manager Web UI の IP アドレスまたは URL、メンテナンスユーザの名前（umadmin）、およびデフォルトのパスワードを確認します。

次のようなメッセージが表示されます。

```
Active IQ Unified Manager installed successfully.
Use a web browser and one of the following URL(s) to configure and
access the Unified Manager GUI.
https://default_ip_address/      (if using IPv4)
https://[default_ip_address]/    (if using IPv6)
https://fully_qualified_domain_name/

Log in to Unified Manager in a web browser by using following details:
  username: umadmin
  password: admin
```

11. IP アドレスまたは URL、割り当てられたユーザ名（umadmin）、および現在のパスワードをメモします。
12. Unified Manager をインストールする前にカスタムのホームディレクトリで umadmin ユーザアカウントを作成していた場合は、umadmin ユーザのログインシェルを指定する必要があります。

「usermod -s /bin/maintenance-user-shell.sh umadmin」のように設定します

の説明に従って、Web UIにアクセスしてumadminユーザのデフォルトパスワードを変更し、Unified Managerの初期セットアップを実行します **"Active IQ Unified Manager を設定しています"**。umadminユーザのデフォルトパスワードを変更する必要があります。

Unified Manager のインストール時に作成されるユーザ

Red Hat Enterprise LinuxにUnified Managerをインストールすると、Unified Managerとサードパーティユーティリティによってumadmin、jboss、およびmysqlの各ユーザが作成されます。

- * umadmin *

Unified Manager への初回ログインで使用します。このユーザーには「アプリケーション管理者」ユーザーロールが割り当てられ、「メンテナンスユーザー」タイプとして設定されます。このユーザは Unified Manager によって作成されます。

- * JBoss *

JBoss ユーティリティに関連する Unified Manager サービスの実行に使用します。このユーザは Unified Manager によって作成されます。

- * MySQL *

Unified Manager の MySQL データベースクエリの実行に使用します。このユーザは MySQL サードパーティユーティリティによって作成されます。

Unified Manager のインストール時、これらのユーザに加え、対応するグループとして maintenance、jboss、および mysql の各グループが作成されます。maintenance グループと jboss グループは Unified Manager によって作成され、mysql グループはサードパーティユーティリティによって作成されます。



Unified Manager をインストールする前にカスタムのホームディレクトリを作成して独自の umadmin ユーザのパスワードを定義していた場合、インストール時に maintenance グループまたは umadmin ユーザがもう一度作成されることはありません。

JBossのパスワードを変更する

インストール時に設定されたインスタンス固有の JBoss パスワードをリセットできます。このセキュリティ機能によって Unified Manager のインストール設定が上書きされてしまいます。必要に応じて、パスワードをリセットすることもできます。この処理を実行すると、MySQL へのアクセス時に JBoss で使用するパスワードも変更になります。

- Unified ManagerがインストールされているRed Hat Enterprise Linuxシステムへのrootユーザアクセスが必要です。
- ディレクトリ /opt/NetApp/essentials/bin' の中の 'password.sh' スクリプトにアクセスできる必要があります

手順

1. システムに root ユーザとしてログインします。
2. 次のコマンドを記載された順序で入力して、Unified Manager サービスを停止します。

```
'systemctl stop ocieau
```

```
'systemctl stop ocie
```

関連付けられている MySQL ソフトウェアは停止しないでください。

3. 次のコマンドを入力して、パスワードの変更プロセスを開始します。

```
/opt/NetApp/essentials/bin/password.sh resetJBossPassword
```

4. プロンプトが表示されたら、新しい JBoss パスワードを入力し、確認のためにもう一度入力します。

パスワードは 8~16 文字で指定し、数字、大文字、小文字、および次の特殊文字の少なくとも 1 文字を含める必要があります。

```
!@%*^*_-=[]:<> ? /~+`
```

5. スクリプトが完了したら、次のコマンドを記載された順序で入力して、Unified Manager サービスを開始します。

```
systemctl start ocie
```

```
systemctl start ocieau
```

6. すべてのサービスが開始されたら、Unified Manager UI にログインできます。

Red Hat Enterprise Linux 上の Unified Manager のアップグレード

新しいバージョンが利用可能になったときは、Unified Manager をアップグレードできません。

Unified Manager ソフトウェアのパッチリリースがネットアップから提供されたときは、新規リリースと同じ手順を使用してインストールします。

Unified Manager を OnCommand Workflow Automation のインスタンスとペアにして使用している環境では、両方の製品のソフトウェアで新しいバージョンを利用できる場合、2 つの製品間の接続を解除してから各製品をアップグレードし、アップグレードの実行後に Workflow Automation の接続を新たにセットアップする必要があります。いずれかの製品のみをアップグレードする場合は、アップグレード後に Workflow Automation にログインし、Unified Manager からデータを取得していることを確認します。

Unified Manager バージョンでサポートされているアップグレードパス

Active IQ Unified Manager では、バージョンごとに特定のアップグレードパスがサポートされます。

すべてのバージョンの Unified Manager で、新しいバージョンへのインプレース アップグレードを実行できるわけではありません。Unified Manager のアップグレードは N-2 モデルに制限されます。つまり、すべてのプラットフォームで次の 2 つのリリースへのアップグレードのみ実行できます。たとえば、Unified Manager 9.18 へのアップグレードは Unified Manager 9.14 と 9.16 からのみ実行できます。

サポート対象よりも前のバージョンを実行している場合は、Unified Manager インスタンスをいずれかのサポート対象バージョンにアップグレードしてから、現在のバージョンにアップグレードする必要があります。

たとえば、インストールされているバージョンが Unified Manager 9.9 で Unified Manager 9.14 にアップグレードする場合は、一連のアップグレードを実行します。

アップグレードパスの例：

1. 9.11 から 9.13 へのアップグレード
2. 9.13 → 9.14 にアップグレード
3. 9.13 から 9.16 へのアップグレード
4. 9.14 または 9.16 から 9.18 へのアップグレード

アップグレードパスマトリックスの詳細については、こちらを参照してください ["ナレッジベース \(KB\) の記事を参照してください"](#)。

Unified Manager をアップグレードします

LinuxプラットフォームでUnified Manager 9.14または9.16から9.18にアップグレードするには、インストール ファイルをダウンロードして実行します。

開始する前に

- Unified Manager をアップグレードするシステムがシステム要件とソフトウェア要件を満たしている必要があります。

を参照してください ["ハードウェアシステムの要件"](#)。

を参照して ["Linux ソフトウェアとインストールの要件"](#)

- Red Hat Enterprise Linux Subscription Manager への登録が必要です。
- Unified Manager をアップグレードする前に、適切なバージョンの OpenJDK をインストールするか、または適切なバージョンにアップグレードする必要があります。

を参照してください ["Linux での JRE のアップグレード"](#)。

- Unified Manager をアップグレードする前に、7-zip の正しいバージョンをインストールするか、正しいバージョンにアップグレードする必要があります。見る ["7-zipソフトウェアパッケージを構成する"](#)。
- アップグレード中に問題が使用される場合にデータが失われないようにするために、Unified Manager データベースのバックアップを作成しておく必要があります。ネットアップでは、からバックアップファイルを移動することを推奨します /opt/netapp/data ディレクトリを外部の場所に移動します。
- アップグレードの実行中に、パフォーマンスデータの保持期間について、以前のデフォルト設定である 13 カ月のままにするか 6 カ月に変更するかを確認するプロンプトが表示されることがあります。変更を確認すると、6 カ月を過ぎた過去のパフォーマンスデータはパージされます。
- アップグレードプロセスの実行中は Unified Manager を使用できなくなるため、実行中の処理がある場合は完了しておいてください。
- MySQL Community Editionは、Unified Managerのアップグレード時に自動的にアップグレードされます。システムにインストールされているMySQLのバージョンが8.4.7より前の場合は、Unified Managerのアップグレード プロセスによって8.4.7に自動的にアップグレードされます。

手順

1. ターゲットのRed Hat Enterprise Linuxサーバにログインします。
2. サーバに Unified Manager のバンドルをダウンロードします。

を参照してください ["Linux版Unified Managerをダウンロードしています"](#)。

3. ダウンロードしたディレクトリに移動し、Unified Manager のバンドルを展開します。

'ActiveIQUnifiedManager-<バージョン>.zip を解凍します

Unified Manager に必要な RPM モジュールがターゲットディレクトリに解凍されます。

- ディレクトリに次のモジュールがあることを確認します。

```
ls *.rpm`
```

```
「 netapp - um <version>.x86_64.rpm 」
```

- インストール前スクリプトを実行して、アップグレードと競合するシステム設定やインストール済みソフトウェアがないことを確認します。

```
'UDO./PRE_INSTALL_check.sh'
```

インストール前スクリプトは、システムに有効なRed Hat Enterprise Linuxサブスクリプションがあるかどうか、およびシステムが必要なソフトウェアリポジトリにアクセスできるかどうかを確認します。問題が検出された場合は、修正してアップグレードを続行する必要があります。

不足しているパッケージが検出された場合は、に記載されている手順を実行します ["不足しているパッケージに対して実行する追加手順"](#)。足りないパッケージがない場合は、次の手順に進みます。

- 次のスクリプトを使用して Unified Manager をアップグレードします。

```
「 upgrade.sh` 」
```

RPM モジュールが自動的に実行され、必要なサポートソフトウェアとそれらで実行されている Unified Manager モジュールがアップグレードされます。アップグレードと競合するシステム設定やインストール済みソフトウェアがないのかも確認されます。問題が検出された場合は、Unified Manager をアップグレードする前に修正する必要があります。Unified Managerをアップグレードする前に`_net-snmp_`などのパッケージをインストールしていた場合は、MySQLの依存関係によってアップグレード中にパッケージがアンインストールされることがあります。引き続き使用するには、パッケージを手動で再度インストールする必要があります。

- アップグレードが完了したら、メッセージを上スクロールして、Unified Manager Web UI の IP アドレスまたは URL、メンテナンスユーザの名前（umadmin）、およびデフォルトのパスワードを確認します。

次のようなメッセージが表示されます。

```
Active IQ Unified Manager upgraded successfully.
Use a web browser and one of the following URLs to access the Unified
Manager GUI:

https://default_ip_address/      (if using IPv4)
https://[default_ip_address]/    (if using IPv6)
https://fully_qualified_domain_name/
```

サポートされているWebブラウザの新しいウィンドウに表示されたIPアドレスまたはURLを入力してUnified Manager Web UIを起動し、前に設定したメンテナンスユーザの名前（umadmin）とパスワードを使用してログインします。

不足しているパッケージに対して実行する追加手順

アップグレード中にサイトで不足しているパッケージが検出された場合、またはシステムがインターネットに接続されていない場合、またはRed Hat Enterprise Linuxリポジトリを使用していない場合は、次の手順を実行して、必要なパッケージが揃っているかどうかを確認し、それらのパッケージをダウンロードします。



これらの手順は、メイン手順のstep_5_(ステップ5)の後に実行する必要があります。この手順アップグレードではUnified Managerがアップグレードされます。アップグレードのために追加の手順を実行する必要はありません。

1. 各パッケージについてその有無を表示します。

```
yum`install NetApp-um <version> .x86_64.rpm -amiteno`
```

"Installing : " セクションの項目は現在のディレクトリにあるパッケージで、 "Installing for dependencies : " セクションの項目はシステムにないパッケージです。

2. インターネットにアクセスできる別のシステムで、次のコマンドを実行して不足しているパッケージをダウンロードします。

```
yum`install package_name --DownloadOnly --downloadaddir=`
```

パッケージは '--downloadaddir=' として指定されたディレクトリにダウンロードされます

プラグイン「yum-plugin-downloadonly」は、Red Hat Enterprise Linux システムで常に有効になっているとは限りません。インストールせずにパッケージをダウンロードするには、この機能を有効にする必要があります。

```
yum install yum-plugin-downloadonly を実行します
```

3. インストールシステムでUnified Managerのバンドルを解凍したディレクトリに、ダウンロードしたパッケージをコピーします。
4. ディレクトリをそのディレクトリに変更し、次のコマンドを実行して欠落パッケージとその依存関係をインストールします。

```
yum`install *.rpm`
```

5. Unified Manager サーバを起動します。次のコマンドを実行します。

```
'systemctl start ocie
```

```
'systemctl start ocieau
```

これでUnified Managerのアップグレードプロセスは完了です。サポートされているWebブラウザの新しいウィンドウに表示されたIPアドレスまたはURLを入力してUnified Manager Web UIを起動し、前に設定したメンテナンスユーザの名前 (umadmin) とパスワードを使用してログインします。

ホスト OS を **Red Hat Enterprise Linux 7.x** から **8.x** にアップグレードします。

Unified ManagerがインストールされているRed Hat Enterprise Linux 7.xシステムをRed Hat Enterprise Linux 8.xにアップグレードする必要がある場合は、このトピックに記載されているいずれかの手順に従う必要があります。いずれの場合も、Red Hat Enterprise

Linux 7.xでUnified Managerのバックアップを作成し、そのバックアップをRed Hat Enterprise Linux 8.xシステムにリストアする必要があります。サポートされるRed Hat Enterprise Linuxのバージョンは8.0から8.10です。

ここに記載する2つの方法の違いは、Unified Managerのリストア処理を新しい8.xサーバで実行する場合と同じサーバで実行する場合です。

この作業では、Red Hat Enterprise Linux 7.xシステムでUnified Managerのバックアップを作成するため、Unified Managerがオフラインになる時間が最小限になるように、アップグレードプロセス全体を実行する準備ができてからバックアップを作成します。Red Hat Enterprise Linux 7.xシステムをシャットダウンしたあと、新しいRed Hat Enterprise Linux 8.xを起動するまではデータが収集されないため、その間のデータはUnified Manager UIに表示されません。

を参照してください ["バックアップとリストアの処理の管理"](#) バックアッププロセスとリストアプロセスの詳細な手順を確認する必要がある場合。

Red Hat Enterprise Linux 8.xソフトウェアをインストールできるスペアシステムがある場合は、Red Hat Enterprise Linux 7.xシステムが稼働している間にスペアシステムでUnified Managerのリストアを実行できるように、次の手順に従います。

1. 新しいサーバにRed Hat Enterprise Linux 8.xソフトウェアをインストールして設定します。

を参照して ["Linuxソフトウェアとインストールの要件"](#)

2. Red Hat Enterprise Linux 8.xシステムには、既存のRed Hat Enterprise Linux 7.xシステムと同じバージョンのUnified Managerソフトウェアをインストールします。

を参照して ["LinuxへのUnified Managerのインストール"](#)

インストールが完了しても、UIを起動したり、クラスタ、ユーザ、または認証設定を設定したりしないでください。この情報は、リストアプロセスでバックアップファイルに取り込まれます。

3. Red Hat Enterprise Linux 7.xシステムで、Web UIの[管理]メニューからUnified Managerのバックアップを作成し、バックアップファイル（「.7z」ファイル）とデータベースリポジトリディレクトリ（「/database-dumps-repo」サブディレクトリ）の内容を外部の場所にコピーします。
4. Red Hat Enterprise Linux 7.xシステムで、Unified Managerをシャットダウンします。
5. Red Hat Enterprise Linux 8.xシステムで、バックアップファイル（「.7z」ファイル）を外部の場所から「/opt/NetApp/data/ocum-backup/」に、データベースリポジトリファイルを「/ocum-backup」ディレクトリの「/database-dumps-repo」サブディレクトリにコピーします。
6. 次のコマンドを入力して、バックアップファイルからUnified Managerデータベースをリストアします。

「um backup restore -f /opt/NetApp/data/ocum-backup/<backup_file_name>」という名前になります

7. WebブラウザにIPアドレスまたはURLを入力してUnified Manager Web UIを起動し、システムにログインします。

システムが正常に動作していることを確認したら、Red Hat Enterprise Linux 7.xシステムからUnified Managerを削除できます。

- 同じサーバ上のホストOSのアップグレード*

Red Hat Enterprise Linux 8.x ソフトウェアをインストールできるスペアシステムがない場合は、次の手順に従います。

1. Web UI の管理メニューから Unified Manager のバックアップを作成し、バックアップファイル（「.7z」ファイル）およびデータベースリポジトリディレクトリ（「/database-dumps-repo」サブディレクトリ）の内容を外部の場所にコピーします。
2. システムから Red Hat Enterprise Linux 7.x イメージを削除し、システムを完全に消去します。
3. 同じシステムに Red Hat Enterprise Linux 8.x ソフトウェアをインストールして設定します。

を参照して "[Linux ソフトウェアとインストールの要件](#)"

4. Red Hat Enterprise Linux 8.x システムには、以前の Red Hat Enterprise Linux 7.x システムと同じバージョンの Unified Manager ソフトウェアをインストールします。

を参照して "[LinuxへのUnified Managerのインストール](#)"

インストールが完了しても、UI を起動したり、クラスタ、ユーザ、または認証設定を設定したりしないでください。この情報は、リストアッププロセスでバックアップファイルに取り込まれます。

5. 外部の場所から /opt/NetApp/data/ocum-backup/ にバックアップファイル（「.7z」ファイル）をコピーし、データベースリポジトリファイルを「/ocum-backup」ディレクトリの「/database-dumps-repo」サブディレクトリにコピーします。
6. 次のコマンドを入力して、バックアップファイルから Unified Manager データベースをリストアします。

「um backup restore -f /opt/NetApp/data/ocum-backup/<backup_file_name >`」という名前になります

7. Web ブラウザに IP アドレスまたは URL を入力して Unified Manager Web UI を起動し、システムにログインします。

Unified Manager のインストール後にサードパーティ製品をアップグレードする

JRE などのサードパーティ製品が Linux システムにすでにインストールされている場合は、それらの製品をアップグレードできます。

これらのサードパーティ製品を開発する企業は、定期的にセキュリティの脆弱性を報告しています。このソフトウェアの新しいバージョンには、独自のスケジュールでアップグレードできます。

Linux で OpenJDK をアップグレードする

Unified Manager がインストールされている Linux サーバで OpenJDK を新しいバージョンにアップグレードすることで、セキュリティの脆弱性に対する修正を入手できます。

開始する前に

Unified Manager がインストールされている Linux システムに対する root 権限が必要です。

OpenJDK のリリースはリリースファミリー内で更新できます。たとえば、OpenJDK 11.0.14からOpenJDK 11.0.17にアップグレードできますが、OpenJDK 11からOpenJDK 12に直接更新することはできません。

手順

1. Unified Manager ホストマシンに root ユーザとしてログインします。
2. 適切なバージョンの OpenJDK (64 ビット) をターゲットシステムにダウンロードします。
3. Unified Manager のサービスを停止します。

```
'systemctl stop ocieau
```

```
'systemctl stop ocie
```

4. システムに最新の OpenJDK をインストールします。
5. Unified Manager のサービスを開始します。

```
'systemctl start ocie
```

```
'systemctl start ocieau
```

統合マネージャを再起動します

設定を変更した場合、Unified Manager の再起動が必要になることがあります。

開始する前に

Unified ManagerがインストールされているRed Hat Enterprise Linuxサーバへのrootユーザアクセスが必要です。

手順

1. Unified Manager サービスを再起動するサーバに root ユーザとしてログインします。
2. Unified Managerサービスと関連するMySQLサービスを次の順序で停止します。

```
'systemctl stop ocieau
```

```
'systemctl stop ocie
```

```
'systemctl stop mysqld
```

3. MySQLサービスとUnified Managerサービスを次の順序で開始します。

```
'systemctl は mysqld' を起動します
```

```
'systemctl start ocie
```

```
'systemctl start ocieau
```



mysqld は、MySQLサーバの起動と停止に必要なデーモンプログラムです。

統合マネージャーを削除する

Red Hat Enterprise LinuxホストからUnified Managerを停止およびアンインストールするには、1つのコマンドを使用します。

開始する前に

- Unified Manager を削除するサーバへの root ユーザアクセスが必要です。
- LinuxシステムでSecurity-Enhanced Linux (SELinux) を無効にしておく必要があります。を使用して、SELinuxランタイムモードを「permissive」に変更します `setenforce 0` コマンドを実行します
- ソフトウェアを削除する前に、Unified Manager サーバからすべてのクラスタ（データソース）を削除しておく必要があります。
- MySQLポート3306を許可またはブロックするために作成されたファイアウォールルールは手動で削除する必要があります。ファイアウォールルールは自動的に削除されません。

手順

1. Unified Manager を削除するサーバに root ユーザとしてログインします。
2. Unified Manager を停止してサーバから削除します。

「`rpm -e NetApp-um`」を入力します

この手順では、関連付けられているすべてのNetApp RPM パッケージが削除されます。Java、MySQL、7zip などの前提条件となるソフトウェア モジュールは削除されません。

3. オプション: 必要に応じて、Java、MySQL、7zip などのサポート ソフトウェア モジュールを削除します。

```
rpm -e mysql-community-client mysql-community-server mysql-community-common
mysql-community-libs java-x.y
```

この処理が完了すると、ソフトウェアは削除されます。アンインストール後 '/opt/NetApp/data' ディレクトリのすべてのデータは '/opt/NetApp/data/backup' フォルダに移動されますUnified Manager をアンインストールすると、Java パッケージと MySQL パッケージも削除されます。ただし、パッケージが必要でシステム上の他のアプリケーションで使用されている場合は除きます。ただし、MySQL のデータは削除されません。

カスタム **umadmin** ユーザーとメンテナンス グループを削除します

Unified Manager をインストールする前にカスタムのホームディレクトリを作成して独自の **umadmin** ユーザと **maintenance** アカウントを定義していた場合は、Unified Manager のアンインストール後にそれらを削除する必要があります。

Unified Manager の標準のアンインストール手順では、カスタムの **umadmin** ユーザと **maintenance** アカウントは削除されません。これらの項目は手動で削除する必要があります。

手順

1. Red Hat Enterprise Linux サーバに root ユーザとしてログインします。
2. **umadmin** ユーザを削除します。

「`userdel umadmin`」

3. **maintenance** グループを削除します。

「`groupdel maintenance`」

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。